

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 25 No.12 2023年6月30日

製品・サービス動向-国内

■ヤマハ：Interop Tokyo 2023 出展、ネットワーク Sler へ音響ソリューション 「ADECIA」を提案、ネットワーク製品と 同じように提案から導入まで対応

（取材：6月14日）

ヤマハ株式会社（<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/>）（静岡県浜松市）は、Interop Tokyo 2023（6月14日～6月16日、幕張メッセ）において、ネットワークから音環境をテーマにヤマハのソリューションを展示。その中で、ユニファイドコミュニケーション関連では ADECIA や YVC シリーズ、ビデオサウンドバーの各製品の展示・デモが行われた。



ヤマハブース

ヤマハによると、会議システムは専門音響知識を有する専門業者が設計・施工・設定を行うものという印象が国内では強いが、今回のネットワークのイベントでは、専門外と一般的に思われているネットワーク Sler でも音響ソリューション ADECIA の提案・施工・設定が可能である、ということを来場者に訴求している。

機器の接続は LAN ケーブルだけで音響知識なくとも、ネットワーク製品と同じように提案から導入まで

対応できるという。音響ソリューション提案への敷居を下げ、ユーザーの裾野を広げることにつなげたい考えだ。

展示コーナーではその設置・設定の簡単さを理解してもらうため、ヤマハ製のアクセスポイントやスイッチ、プロセッサなどを組み合わせた ADECIA ワイヤレスソリューションの構成例を紹介。



ADECIA ワイヤレスソリューション



YVC シリーズ各製品等

4 種のマイクロフォン（ゲースネックマイク「RM-WGL」など）やマイクロフォン充電ステーション「RM-WCH-8」を用意するほか、Dante と PoE 給電に対応しているインテリジェント L2 スイッチ

「SWR2311P-10G」のポートに、無線アクセスポイント「RM-WAP-8」、ADECIA 遠隔会議用プロセッサ「RM-CR」をそれぞれ LAN ケーブル接続するだけで機器設置は完了する形。ケーブル接続するだけであればネットワーク Sier でも ADECIA の設置を行うことが可能なためお客様への提案の幅を広げることが可能になるとヤマハでは説明する。取材時（14 日午後）、開場とともにネットワーク Sier からの取扱い希望の声が多数あり既に手応えを感じているという。

ADECIA は、遠隔会議用ソリューションとして 2020 年 9 月に発表（2021 年 1 月発売）。シーリングソリューションを皮切りに、テーブルトップソリューション、ワイヤレスソリューションを次々と発表し、ワールドワイドに提供している。

国内では、企業や社団法人から大学、研究所など、YVC シリーズなどの既存ユーザなども含めヤマハ製品への信頼性から多数導入実績がある。

ADECIA は、「Microsoft Teams」や「Zoom」認証からの認証を得ており、また、バルコ、レノボ、Aver Information、Lumens 各社との技術連携も積極的に展開している。

なお、Interop Tokyo 2023 では、同社のビデオサウンドバー「CS-800」と「CS-500」が、ガジェット部門でグランプリを受賞した。

■ ZVC Japan：バーチャル体験を高める 「Zoom Events/Zoom Sessions」日本語版 提供開始を発表

（PRTIMES：6 月 19 日）

ZVC Japan 株式会社 (<https://zoom.us/ja/>)（東京都渋谷区）は、大規模なバーチャルイベントおよびハイブリッドイベントを作成・運営できるオールインワンプラットフォーム「Zoom Events」と、シングルセッションのイベント機能を提供する新しいイベント管理ソリューション「Zoom Sessions」の日本語版の

提供を開始した。

Zoom Events

Zoom Events は、「Zoom Webinars」「Zoom Meetings」「Zoom Team Chat」を統合した、イベント主催者向けの包括的ソリューション。

組織内外の視聴者の規模を問わずライブイベントを開催でき、シングルセッション、複数日、複数トラック、同時進行のセッションなどさまざまなイベントに対応している。

社外向けセミナーや社内イベントなどの単発のイベントに最適で、ユーザ向け会議などの社外ゲストを交えたイベントをシームレスに提供できる。

有意義なつながりを構築できるイベントのネットワーキング機能、Expo フロアなどのインタラクティブ機能、講演者とイベント主催者が利用できるバックステージ機能などを用意している。

その他、事後のコンテンツ管理やオンデマンド視聴が簡単に行える、包括的な分析レポート機能により出席者のエンゲージメントを追跡できる、などのメリットもある。

Zoom Sessions

シングルセッションのイベントで高度な機能を必要とするマーケティング担当者やコミュニケーション担当者向けに開発され、Zoom Events の機能を、イベント主催者が 1 セッション単位で利用できるようにしたもの。

製品発表会、エグゼクティブ向け座談会、マーケティング需要創出イベントなど、シングルセッションのイベント実施に最適という。

登録ページ、イベントロビー、Zoom Sessions を会社のブランドカラーやロゴでカスタマイズし、イベントを通じたブランディングを強化することが可能。また、ライブ体験を再現し、参加者の好みに合わせて録

音済みのコンテンツを自動配信することもできる。さらには、イベント中に行動喚起（CTA）、スピーカーの経歴、ダウンロード可能なドキュメントを追加して参加者との交流を促進することもできる。イベントの前・中・後の舞台裏で、制作スタッフやパネリストがコラボレーションできる仮想バックステージ環境も用意している。

その他、イベント分析では、イベントの登録、出席、イベント参加、チケット収入を追跡することが行える。また、全てのイベントと録音を1か所にまとめて整理、コンテンツの公開・非公開を選択したりすることもできる。

■日本 HP：ハイブリットワークに最適な Poly の会議室用オールインワンビデオバーやワイヤレス IP 電話機を発表

（PRTIMES：6月30日）

株式会社日本 HP（<https://www.poly.com/jp/ja>）（東京都港区）は、ハイブリットワークに最適な Poly の会議室用オールインワンビデオバー「Poly Studio X52 ビデオバー」及びワイヤレス IP 電話機「Poly Rove 20、30、40 DECT ハンドセット」「Poly Rove B1、B2、B4 ベースステーション」を発表した。販売開始は7月1日から。価格はオープン。



Poly Studio X52（日本 HP）

Poly Studio X52 は、中規模会議室でのビデオ会議エクスペリエンスを向上させるオールインワンビデオ

バー。4K 対応、2000 万画素のカメラを搭載、全ての参加者を鮮明に映し出すとともに、「Poly DirectorAI スマートカメラテクノロジー」により、グループ、話者、人物などの自動カメラフレーミングモードを提供する。「Google Meet」「Microsoft Teams」「Zoom」の認定を取得しており、「BlueJeans by Verizon」「GoTo」「RingCentral」のネイティブサポートについては認定待ちという。

またアクセサリーのタッチコントロールパネル「Poly TC10」は、Android ベースの「Microsoft Teams Rooms」の会議コントロールに対応した。Microsoft Teams のルームスケジューリングパネルとしての機能も備えており、空室状況の把握やその場での部屋予約も可能となっている。TC10 は Microsoft Teams 認定を取得している。

「Poly Rove シリーズワイヤレス DECT IP 電話機」が採用する DECT は、小売業をはじめとする様々な業界で採用される最も信頼性の高い移動通信規格のひとつとされており、Poly Rove シリーズは利用者の自由な行動と、企業の成長に合わせた柔軟な拡張性を提供する。

現場の従業員に向けて開発された Poly Rove シリーズ DECT ハンドセットは、堅牢で安全なコミュニケーションと、広範囲に渡る接続性を備えており、すべての Poly Rove B シリーズ ベースステーションと互換性があるため、簡単にペアリングして、複数台同時通話をサポートし、利用範囲を拡張する。

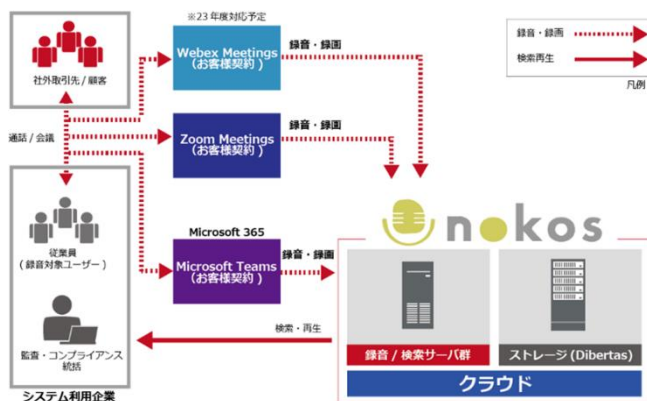
なお、日本 HP は、ハイブリットワークを支援する法人向け新製品として、Poly 製品の他、ビデオ会議の質を向上するアプリケーション「HP Presence」を利用できる、ノート PC やモバイルワークステーションの新製品も発表している。また、「PC リユースプログラム」も開始している。

■三菱電機インフォメーションシステムズ： 「Microsoft Teams」向け録音サービス 「nokos」に「Zoom」自動録音機能を追加

(6月27日)

三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社 (<https://www.mdiss.co.jp/>) (東京都港区) は、「Microsoft Teams」向け録音サービス「nokos」 (<https://www.mdiss.co.jp/service/nokos/>) に「Zoom」自動録音機能を追加したことを発表。

Web 会議の利用が一般的になり、金融機関をはじめ顧客対応のコンプライアンス管理を重視する企業では通話・会議内容の録音・録画システムの導入が進んでいるという。しかしながら、Teams、Zoom など複数の Web 会議の中から取引先に合わせ異なるツールを利用する必要があり、それぞれに対応した録音・録画システムの整備が負担となっていた。



nokos サービスの概要図

(三菱電機インフォメーションシステムズ)

nokos は、Microsoft Teams で実施される通話や会議を全自動録音しクラウドで管理するサービス。サービスはブラウザがあれば利用できる WebUI 方式をとっている。今回、これに「Zoom Meetings」を録音・録画する機能を追加し販売開始する。

同一システムで Teams 及び Zoom の対応が可能で、録音データの一元管理も可能となるため管理・録音検

索などの業務の効率化を支援する。

全自動となるため故意の録音停止が不可となり、従業員のコンプライアンス遵守の徹底を支援する。加えて第三者による検索、再生により監査、統制に利用可能となっている。また、FISC 安全対策基準に準拠したマルチクラウドストレージで音声データを管理する。

今回の Zoom 自動録音追加に伴いサービス名を「Microsoft Teams 録音サービス nokos」から「Webex 会議録音サービス nokos」に改称する。既存のユーザは追加料金なしで Zoom の録音・録画機能を利用できる。

7 月末からサービス提供を開始し、今後 5 年間で 30,000 ユーザへの展開を目指す。また、「Webex Meetings」の録音・録画についても本年度中に提供できるよう開発を進めているという。これにより、企業での利用率の高い各 Web 会議のコンプライアンス管理に対応していくとしている。

株式会社 RevComm (東京都渋谷区) は、AI 搭載オンライン会議解析ツール「MiiTel Meetings」のオンライン会議の自動録画・文字起こし・音声解析機能を「Google Meet」に対応する機能拡張を行った。

■RevComm：オンライン会議解析ツール 「MiiTel Meetings」、ChatGPT 議事録連 携機能を追加、CRM、チャットツールに共 有

(PRWire：6月30日)

株式会社 RevComm (<https://www.revcomm.co.jp/>) (東京都渋谷区) は、AI 搭載オンライン会議解析ツール「MiiTel Meetings」 (<https://miiitel.com/jp/>) の ChatGPT 議事録作成機能に連携機能を追加し、「Salesforce」ならびに「Slack」に直接共有できるようになったと発表。

RevComm は 2022 年 7 月に、Zoom によるオンライン会議に対応した AI 搭載オンライン会議解析ツ

ルの提供を開始した。その後、2023年5月には「Microsoft Teams」に、6月には「Google Meet」に対応し、より幅広いオンライン会議への対応が可能となった。

一方、機能面では、2022年12月には要約機能(β版)を、2023年3月には音声感情認識機能、要注意商談通知機能を、2023年5月にはChatGPTを用いて議事録を作成する新機能をリリースするなど、お客様のニーズに応じてアップデートを行ってきた。

今回のChatGPT議事録作成機能に連携機能を追加によって、MiiTel Meetingsを利用しオンライン会議を実施後、ChatGPTにより議事録が作成されると、自動的にSalesforceとSlackに議事内容が共有されるようになる。

Salesforce連携では、活動履歴のコメントに議事録を配置することが可能となった。また、Slack連携では、通知を設定すると、音声認識完了時に議事録を含めて通知することが可能となった。Salesforceに議事録を残し、社内で状況を共有したり、Slack通知により速やかに確認することができるようになった。これにより、オンライン会議に付帯する業務のさらなる効率化が可能となるという。

ビジネス動向-海外

■ ヤマハ：リモート合奏サービス「SYNCROOM」新たに韓国でサービス開始

(6月19日)

ヤマハ株式会社 (<https://www.yamaha.com/ja/>) (静岡県浜松市) は、遠隔地にいる相手とオンラインでリモート演奏を楽しめるサービス「SYNCROOM (シンクルーム)」 (<https://syncroom.yamaha.com/>) の韓国でのサービスを6月19日から開始する。



韓国版の画面イメージ： モバイル版
韓国版の画面イメージ：デスクトップ版

SYNCROOM 韓国版画面イメージ (ヤマハ)



「SYNCROOM」公式プレイヤーズサイト ルーム一覧の画面イメージ

SYNCROOM 韓国版画面イメージ (ヤマハ)

SYNCROOM は、インターネット回線を介して、複数のユーザ同士 (最大5拠点) でリモート合奏ができるサービス。

ヤマハ独自の技術でオーディオデータの双方向送受信の遅れを極小化したことで、遠隔地間でもほとんど違和感のない、快適なオンラインセッションを楽しむことができるという。アプリケーションをインストールして、アカウント登録すると、どなたでも無料で利用できる。

これまで、SYNCROOM は日本国内をサービス対象としていたが、韓国でのサービス開始に伴い、アプリケーションの表示言語は日本語に加え、新たに韓国語

および英語に対応し、韓国国内でも利用できるようになった。また、公開ルームが表示される「ルーム一覧」には、日本と韓国の SYNCROOM ユーザが集まり、オンラインならでは新しい音楽仲間との出会いやセッション体験を愉しむことができるという。

今回の韓国でのサービス開始以後も、SYNCROOMの可能性を広げるため、他の地域での展開を含め多くのお客様が快適に利用できるリモート合奏サービスを目指していくとしている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■Zoom Experience Day Summer

- AI時代に進化する Zoom のビジョン、最新 Zoom 製品をご紹介します

開催日時: 7月7日(金)

午前の部: 10:00 - 13:00 / 午後の部: 14:30 - 17:30

会場: WITH HARAJUKU HALL / LIFORK (原宿駅徒歩1分)

詳細・申込: <https://click.zoom.us/ZoomExperienceDay-2023-Summer>

■バイキューブセミナー情報 (7月)

「ぶらっと個室ブース体験 Days」「元危機管理担当主幹、危機管理防災課長に直接聞く！防災DXの取り組み方」

「Zoomの電話ってなに??」「メタバース入門講座」

「Agora 勉強会@東京」「ライブ配信アプリ開発勉強会」

など

会場: オンライン/オンデマンド/東京/大阪

主催: 株式会社バイキューブ

詳細・申込: <https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー (7月)

会場: オンデマンド (2020年以降録画)

主催: シスコシステムズ合同会社

詳細・申込: https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他: <https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記URLで閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン2023年6月30日号おわり

ホームページ: <https://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp